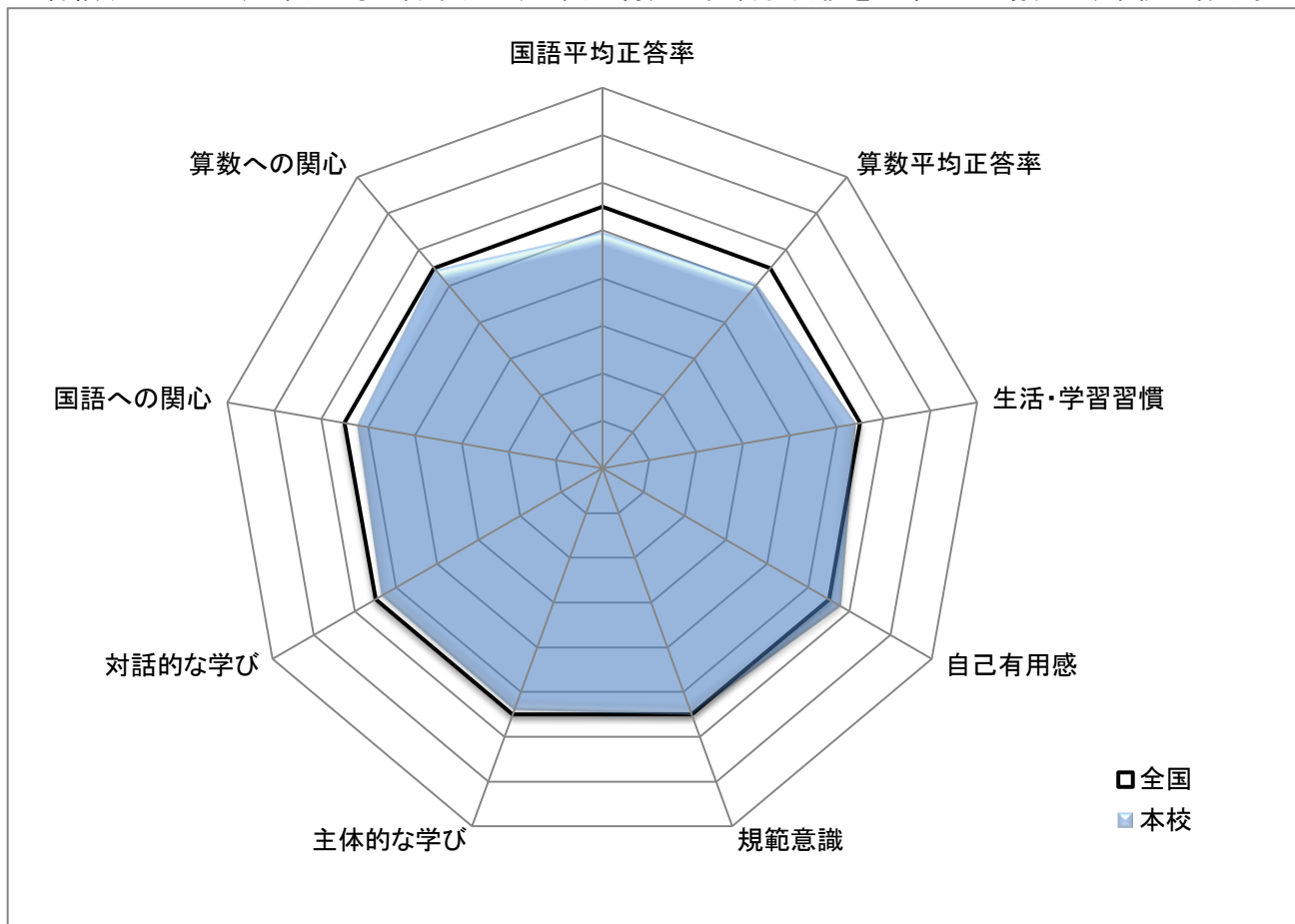


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】
 ◆「書くこと」は、-4.4ポイント、「読むこと」は-3.8ポイント、「話すこと・聞くこと」が-11.3ポイントと大きく下回っており、改善を急がねばならない。
 ◆話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかをみる問題の正答率がかなり低い。
 ◆選択式よりも記述式の問題の正答率が低い。
 【算数】
 ◆全ての領域において、全国平均を下回っていた。特に、「目的に応じて、グラフから必要な情報を読み取ったり、考察したりする」など「データの活用」に関する問題が定着していない。

《授業改善のポイント》

【国語】
 ◆「聞くこと」については、5W1Hを中心にメモをとりながら、相手の主張したいことは何かを考えて聞くように指導する。「話すこと」については、ペアやグループ活動を重視し、相手に伝わるように話す活動に取り組む。
 ◆「読むこと」については、音読を重視する。音読を繰り返して行うことで、文章の意味や登場人物の感情を読み取るにつなげていく。
 ◆選択式よりも記述式の問題の正答率が低かったことから、普段の授業の中で、学習内容について理解したことや考えたことを書く活動や、学校生活や行事等について振り返って書く活動を意図的に設定していく。
 【算数】
 ◆「計算」は、前学年の内容の基礎計算について、ミライシードを活用する等、定期的な練習をさせる機会をとる。学級補習や学研補習の活用をすることで個別の指導もしていく。
 ◆文章題から立式の根拠になる言葉を読み取り、課題を図示するなどして全員が分かるようにする。
 ◆演算の過程や解き方について、考えを交流させたり、全体に説明させたりする活動を普段から積み重ねる。
 ◆「表、グラフの活用」は、算数だけでなく、理科や社会、保健で取り扱う折にも意識して指導していく。
 【共通】
 ◆毎週水曜日の朝の時間「篠小タイム」で、ミライシードを活用する。CDTの結果を基に個人の課題（苦手な領域）に取り組むように指導していく。

《チャートの特徴》

【国語】
 ◆「平均正答率」は、全国平均から7.2ポイント近く下回っている。「国語科の学習への関心」への肯定的回答は、全国平均より少し下回った。「よく分かるか。」との設問に対しては、-7ポイントであった。
 【算数】
 ◆「平均正答率」は、全国平均より5.5ポイント下回っている。「算数科の学習への関心」への肯定的回答は、全国平均とほぼ同じであったが、「よく分かるか。」との設問については、-7.3ポイントであった。
 【生活・学び方等】
 ◆ほとんどの領域で全国平均を少し下回る結果となった。「自己有用感」については全国平均の106%と高い数値となっており、今後も道德教育やキャリア教育等と連携させながら、更に伸ばしていきたい。
 ◆「対話的な学び」のうち、「話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか。」との設問に対しては、全国平均を3ポイント上回っていた。一方で、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすること」が、全国平均より-6.4ポイントであった。

《家庭・地域への働きかけ》

◆児童の学びへの関心をより高め、実態の把握のために、言葉掛けや励ましを含めて、保護者に積極的な関わりを依頼する。
 ◆ホームページ「学校日記」には、普段の教科の学習活動の様子をこまめに伝える。特に、がんばりだけでなく、課題になっていることやポイントとなることについても書き添える。
 ◆「学年×10分」の家庭学習の実施を保護者へ周知し、保護者がチェックしたり、一緒に取り組んだりするように依頼する。
 ◆家庭と連携して毎学期の「健康振り返り週間」を行い、よりよい生活習慣の定着に親子で取り組むように働きかけていく。
 ◆学校だより、学年だより、保健だより等を通して、生活習慣の実態調査の結果と課題を伝える。特に早寝早起きの習慣の定着を求めていく。
 ◆全校を挙げて、東京大学の「子ども睡眠健診」の取組みと連携し、科学的専門的な観点から啓発を図る。